



2011
ANNUAL MEETINGS
World Bank Group
International Monetary Fund
Washington, D.C.

Japanese

September 23, 2011

Address by **CHRISTINE LAGARDE**,
Chairman of the Executive Board and
Managing Director of the International Monetary Fund,
to the Board of Governors of the Fund,
at the Joint Annual Discussion

演説用

「未来への道—協調の時」

2011年 世界銀行グループ・国際通貨基金総務会
年次総会 開会の辞

クリスティーヌ・ラガルド
国際通貨基金 専務理事

2011年9月23日 ワシントン DC

はじめに。ブレトンウッズの精神

総務会委員長、総務並びに来賓の皆様、
国際通貨基金（IMF）の専務理事として、はじめて皆様をこうしてお迎えすることができ、光栄に思うと同時に身が引き締まる思いがいたしております。

イングラム委員長はじめ、総務会の皆様の力強いご支援に御礼申し上げます。また、世界銀行で活躍されている友人ボブ・ゼーリック総裁に感謝いたします。

約2ヶ月前、私は専務理事として初めて IMF のビルに足を踏み入れました。この時、私は、アトリウムに掲げられた国旗を見ました。皆様の国旗であり、加盟187カ国の国旗です。この国旗を前に私は、我々は世界経済として一つであり、これまで以上に相互に結びついているのだという思いを新たにいたしました。

今朝、皆様をお迎えし、世界に広がる加盟国がこのように一つの場集うという光景を前に、2ヶ月前のこの力強い思いがよみがえってまいりました。

そしてこれこそが、IMFが何かを示すものです。これこそが、ブレトンウッズの精神であり、我々が今こそ再び掲げなければならない精神です。

我々は、重要な選択の時に集まっています。

我々はこうしてこのホールに集まっておりますが、このホールの外には厳しい状況が広がっています。世界中の人々は、自らの未来、そして子供達の未来への不安を募らせており、我々に解決を期待しています。

かつてヴィクトル・ユーゴーは言いました。「大きな危機は、見知らぬ者の友好に光を当てるといふ点で、美しい」

我々は決して見知らぬ者同士ではなく、共通の運命でつながっています。そしてこの混乱の中にある今、我々はその距離を一層近づけなければなりません。

我々が、本日、数週間・数ヶ月先に行う選択が、我々の経済全体の命運、すわなち、前進か後退か、を左右するのです。

今こそ行動の時であり、*連携*の時なのです。

このような状況を踏まえ、私は

- 第一に、世界経済の現状について
- 第二に、今後の政策と各々が果たすべき役割について
- そして最後に、IMFはどのように、その道を基に加盟国の皆様に貢献し皆様をサポートすることができるか

以上3点についてお話したいと思います。

では、世界経済の現状についてお話いたします。

既に皆様は、今週前半に発表された我々の見通しをご覧になったことと思います。総じて我々は、世界経済は鈍化し、今年・来年ともに4%の成長率を予測しています。しかし、先進国については、1.5~2%と緩慢なものにとどまると考えられます。

すなわち、回復軌道にはありますが、その道は脆弱であり不均一なものなのです。加えて、リスクが急激に上昇しました。

これらリスクは、弱い成長、国、銀行、および家計の脆弱なバランスシート、そして効力にかける政治的コミットメントの間の、負のフィードバック・ループに反応しているのです。

これは信認危機を引き起こしました。そして、これは、経済的のみならず社会的コストをも我々に強いるものです。

確かに、新興市場国および低所得国は、健全な政策を選択した結果、より良い軌道にあります。しかし、間違えてはなりません。グローバル・サウスはグローバル・ノースのつまずきの影響を受けないことはないのです

我々は、私が呼ぶところの新たな危険な段階に入りました。

それでもなお、道は存在します。政策の選択肢は狭まったことは事実ですが、これは、選択肢が存在しないことを意味するのではないのです。

ここで、第二の点である「未来への道」についてお話いたしましょう。

我々に必要なものは何でしょうか。包括的で雇用を生み出す成長こそが、我々の目標でなければなりません。しかし今日、成長のための戦いに敗れる可能性があるのです。欧州には暗雲が立ち込め、米国は高い不確実性のなかにあるなど、世界の需要の崩壊の危険性があります。

この問題が今ほど差し迫った時はありません。

我々は相互に結びついた世界にあり、一つのボートに乗っています。デカップリングは幻想でしかないのです。

ここで率直に言わせていただくなれば、現在の危機に立ち向かう責任は、主に先進国が負うべきです。

先進国は、財政、金融、金融部門、および構造の各分野で喫緊の課題を抱えています。

財政政策は、信頼性の喪失と成長の弱化という二つの脅威の間で、適切にバランスを取らなければなりません。先進各国は、財政再建が必要であり、これを最優先課題とすべきです。しかし、一部の国では、あまりにも性急な再建は成長と雇用の足かせとなります。ペースは、過度に遅くても性急すぎてもいけません。

これは、ジレンマではなくタイミングと信認の問題です。中・長期的に節減を確保することができる確固たる措置があるならば、当面は成長を支えるためにより多く

を行うことができるでしょう。政策余地の規模は、各国の状況によることは、言うまでもありません。

金融政策については、インフレ期待が総じて十分に安定しているならば、引き続き緩和的であるべきです。中央銀行は、再び必要に応じて大胆な措置を取る準備がなければならず、実際、一部の中央銀行がここ数日でそのような選択をしました。

金融部門に目を向けますと、銀行が貸し付けを行い成長を後押しするとともに、自信をもって、適切にこの不透明な時代に立ち向かうことが出来るよう、我々は銀行のバランスシートを強化しなければなりません。

また、我々は、金融システムをより安全かつ健全なもの、すなわち、金融危機の発生の可能性を減じ、無謀な市場参加者への税金による緊急融資の可能性をさらに減ずるため、より強力で一貫した、導入が実際に可能な金融規制が必要です。

競争力と成長を促進すべく、先進国は構造改革を継続しなければなりません。製品・労働市場の改革を進め、サービス部門の既得権益と戦い、起業家が繁栄し、成長し価値を創造するように努めなければなりません。

同時に我々は、社会的側面にも細心の注意を払わなければなりません。成長のみでは十分ではないのです。雇用を支える成長が必要であり、青年層を失うことがあってはなりません。我々には、社会全体に利益をもたらす包括的な成長が必要です。適切なソーシャル・セーフティ・ネットが必要です。

これは政策の問題です。米国およびユーロ圏という世界最大の経済には、特別に果たすべき責任があります。両国は既に取り組みを開始していますが、喫緊の課題としてそのスピードを加速する必要があります。

米国は、中・長期的に財政赤字を削減し、失業問題に早急に対処し、過剰債務にある家計への圧力を緩和しなければなりません。

一方、欧州は国と銀行の債務という双子の問題に、早急かつ同時に取り組まなければなりません。危機の中心にある国々は、コミットした各種プログラムを実施しなければなりません。さらに、欧州のパートナーは、コミットメントしたように、これらの国々を支援するうえで必要なあらゆる手段を講じなければなりません。

ここまで、私は先進国の責任について重点的にお話してまいりました。これらの国々は危機の最前線におり、また、その決定は、ケニアの農民から、ブラジルのデザイナー、中国の企業家まで、全ての人々に影響することから、これは正しい判断だと思っております。

しかし、我々はその先を、すなわち世界経済の再調整という究極の目的を見据える必要があることは、言うまでもありません。そして、その実現には、全てが自らの役割を果たさなければならないのです。

多くの新興市場国は、力強く成長しています。しかし、対外黒字国は、これまで以上に内需に依存する必要があります。

特にアジアでは、より包括的な成長を生み出し、またこれまで数十年間でアジアが取り組んできた貧困削減は輝かしい実績を上げてきましたが、この「仕事を終わらせる」ためにも、このシフトが必要です。これは、世界経済の回復を後押しすることになります。

経常赤字を抱えている、ラテンアメリカなどの新興市場国の課題は、景気過熱を抑制し金融の安定性を維持することです。

一方、低所得国も、危機の間に効力を発揮した政策バッファーを立て直し、成長および雇用創出に投資を行なうという、果たすべき役割があります。国際社会は、自らの環境の改善に取り組んでいるこれらの国々を支援しなければなりません。

これには、ここ数十年で最悪の大災害に苦しんでいるアフリカの角の人々への、迅速な支援も含まれています。

さらに、中東と北アフリカ全土で、アラブの春は、この地域のあらゆる可能性を解放し、より高いより包括的な成長を実現するための、歴史的な転換を遂げる機会となると確信しています。

これらの全ての問題は、例外なく我々全ての問題です。そして連携は、効果があるのです。

IMFは、その利益の推定値を算出しました。これによると、今後5年で、世界のGDPは1.5%、2,000万の雇用が新たに創出される可能性があるのです。

ここで、最後になります**第三の点**である、**IMF**の役割と貢献についてお話ししましょう。

私は、**IMF**について一つの固い信念があります。すなわち、**IMF**は、世界に広がる加盟国の皆様に貢献するという唯一の理由の下、存在しているということです。我々に課せられた役割は、加盟国の皆様を一つにし、包括的かつ協調的な解決策を促すということです。

政策立案者は、互いに学びあうことができます。先の危機に持ちこたえることが出来た政策立案者は、現在嵐のただ中にある国々と、その専門的知識を共有することが出来ます。そして、**IMF**はこのような関係を促進することができるのです。

IMFはその歴史を通しこの点においても努力を重ねてきました。そして、皆様の支援により、我々はさらに前進することができると、私は確信しています。

第一に、**サーベイランス**を通し、我々は、可能な限りベストかつ客観的な分析を提供し、助言を行うという活動で更なる貢献をすることができます。率直な意見は時に受け入れ難いものです。しかし、難しい選択に迫られた時、率直な意見が極めて貴重なものとなります。

現在、我々は、相互に結びついた世界を貫く脆弱性および波及効果の問題を、過去に例を見ないレベルで重視しています。今後ますます、我々はこれらを取り上げることになるでしょう。

第二に、我々の**融資**は、危機の抑制および解決において、これまで以上に効力を発揮することが出来ます。

例えば、低所得国での保健や教育に対する支出の保護や拡大を可能にすることで、我々の融資は、危機の経済的・社会的コストの緩和に貢献します。さらに、我々の予防的融資は、強力な伝播の影響からの加盟国の保護に有効でしょう。

我々は、**IMF**の融資および国際金融のセーフティネットの強化にむけた施策について、加盟国の皆様と協議を行う機会を心待ちにしております。必要に応じて、我々はクリエイティブに対応します。

第三に、我々は、**技術支援と研修**により、加盟国に一層貢献することができます。しばしば見落とされがちですが、これらサービスは、より良い明日への基盤を築くものです。

例えば、我々は、リベリア財務省に対し支援を行い、教員の給与を直接彼らの銀行口座に振り込むようにしました。これにより、教員は教室での貴重な時間に集中することができるようになりました。さらに現在我々は、エジプトと税制の近代化に向け協力しており、アラブの春の夢を現実にするため、尽力しています。

我々がより効果的となるためには、IMFは加盟国をより一層反映するものでなければなりません。我々は双方を映す鏡のような存在でなければなりません。

これまで数年で、代表権とガバナンスの面で大きく前進することができました。我々はさらにその歩みを進めなければなりません。重要なステップとして、私は皆様が2010年の改革の実現に向け必要な措置を取られることを期待しています。

私は、皆様の懸念や関心事に耳を傾けます。皆様の声を聞きたいと願っています。私は、今後アフリカ、アジア、ラテンアメリカ、そして中東を訪問する予定です。

また、7月にこのビルに足を踏み入れた瞬間より、私はIMFの優秀なスタッフに感嘆しております。我々の全ての報告書や統計の後ろには、時に忘れがちですが、本当の人々がいます。献身的かつ多様性に富んだプロの集団が、世界で最も難しい問題の一部について、解決策を見出そうと懸命に努力しています。

私は彼らを誇りに思っております。皆様も同様に感じて下さっていることを願っています。

また、理事会のご支援、献身、そして努力に心より感謝いたします。

最後に－選択

総務会委員長、そして総務の皆様。はじめに我々は選択に迫られていると申しました。3年前も、我々は同じように岐路に立っておりました。

当時の国際社会は、賢明な選択をしました。我々は団結心と目的をもって連携しました。我々は大胆に行動し、これにより世界大恐慌の再来の回避に貢献しました。

現在、我々は再び重大な局面に立っています。再び賢明な選択をしなければなりません。早急な判断が必要です。本日、皆様をお願いしております数々の行動は、数年先のためのものではありません。数ヶ月先に関係していることなのです。

我々の問題は、主に経済的な問題ではありますが、解決は主に政治的なものなのです。コミットメントが必要なのです。敢然と立ち向かうことが必要なのです。

この度の年次総会という機会に、私は共通の判断を行い、一連の政策提言に合意することができることを願っています。これら政策提言は、皆様が国のリーダーや政府のトップに示すことで、連携への道を開拓し、回復への道を共に歩くためのものとなるでしょう。

以上のことを行うことができるなら、来年皆様と東京で再会するとき、我々は新たな夜明け迎えていることでしょう。

IMFの初日に見た国旗の光景が、今ここで皆様を前にしてよみがえっております。

我々は共につながっているというシンボル。一つの国際社会というシンボル。IMFのシンボル。

道は続いています。その道を掴みましょう。共に。

ご清聴ありがとうございました。